

千刈狸の呟き

吾狸は夢を見るのが好きだ。だからいつも居眠りばかりして居る。夢には二つの意味がある、眠っている時にのみ映像として体験させられる夢と、今ではない時空上に、こうであれば良いのにと願望し想像する「夢と希望」と表現される夢である。吾狸の歳になると叶えられる夢は叶えられ、諦めるものは諦めている。これから更に夢を追い求めるのは欲が深いと言うものだろう。

さて、吾狸は毎晩夢を見る、一晩に2～3篇の夢は見ているだろう。そもそも夢の中身は荒唐無稽で罪も害も無い。時には夢で良かったと目が覚めて安堵することもある。ほとんどの夢は忘れてしまうが、忘れるのが勿体無い夢もある。

気がつくとき吾狸は舞台に立っていた。次は18番の方、唄っていただくのは江差追分です。と司会のアナウンサーの声が聞こえた。NHKのど自慢のステージに立っているようだ。江差追分は何度も聴いたことがある、しかし唄ったことは一度も無く、習ったこともない。江差追分のふるさと江差町には父の転勤で、小学3年から中学1年まで住んでいた。その間父は追分道場に通り江差追分を習った。江差追分は信州の馬子唄が北前船で北に向かう途中の寄港地に伝わり、最上川舟唄や本荘追分となり最終蝦夷地の江差で江差追分になったと伝えられている。節回しは難しく、相当稽古を積みなければ唄うことはかなわず、民謡の王様と称す

～ 狸の夢～

夢見る狸

る人も居る。吾狸にとっては父親の思い出と切り離すことのできない唄でもある。ステージ上の狸は意外にも冷静だった。いったい誰がこんないたずらをして、NHKのど自慢に私の名前で応募したのか？いずれすぐに鐘1つで終わるのだから、と覚悟はできていた。尺八の前奏が始まり、ソイ掛けで唄い始めた。かもオオめええー～のお～～、全く唄になっていない！鳴くう～～～音エ～～、何故だ何故！鐘1つ鳴らないんだ？とうとうこの後の歌詞は知らないぞ、と言うところまで来て、急に可笑しくなってアハハと笑いだした。笑いがとまらぬまま目が覚めて、それでも笑い続けた。本当に誰が応募したのか？今でも娘の誰かだと思っている。

ジークムント・フロイトが書いた「夢判断」は有名である。一度読んだが、科学的に証明されたものでは勿論なく、夢についての思索との印象を受けた。私の頭がついて行けなかったためである。夢を意味あるメッセージとして解き明かす話として、とても面白いのが旧約聖書の創世記に書かれているヨセフ物語である。

さて、吾狸にはもうひとつの意味の夢があった。欲深い夢ではない。昨年亡くなられた元公立秋田工芸美術短期大学学長の石川好氏が提唱したディスカバリー北前船に因んで、追分（節）交流会が本荘追分のふるさとである由利本荘市で開催されないかなあ、と言う夢である。